

平成25年度における大竹市の決算状況

1 収入及び支出の状況

平成25年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における**歳入総額は、138億3,605万9,112円（対前年度比6.9%減）**、**歳出総額は、137億9,801万2,663円（同比5.7%減）**となり、歳入・歳出決算額とも前年度を下回りました。

形式収支は、3,804万6,449円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源2,405万1,436円を差し引いた残額、すなわち**実質収支は、1,399万5,013円**となりました。

（1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、法人市民税が約4,020万円増加したものの、固定資産税が約1億9,654万円、個人市民税が約3,556万円減少したこと等により、**市税全体では約1億9,482万円（対前年度比3.4%）の減**となりました。

また、地方交付税は約3,865万円（同比3.2%）の減、国庫支出金が約8,127万円（同比3.8%）の減となりました。

市債は、臨時財政対策債や建設事業債の発行はあるものの、小方小学校・小方中学校移転改築事業の終了等により、8億1,811万円（同28.8%）の減となりました。

（2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり
- ⑦ 住みたい、住んでよかったと感じるまち

① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

具体的には、教育活動上、支援が必要な児童・生徒に学級支援員を配置した「**学習環境サポート事業**（事業費1,138万円）」や玖波小学校の耐震化対策のため、校舎・講堂（体育館）の耐力度調査・耐震診断を実施した「**玖波小学校施設整備事業**（403万円）」などを行いました。

② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

具体的には、健康づくりや生きがいをづくりの拠点とするため、球技場・テニスコートを整備した「**晴海臨海公園整備事業**（事業費4億9,862万円）」やJR玖波駅西側に新たに集改札口を設けるために必要となる用地の買収等を行った「**玖波駅西口及び玖波36号線道路改良事業**（2,365万円）」などを行いました。

③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

具体的には、市内の急傾斜地崩壊対策箇所について、宅地背面の崖面崩壊を防ぐための擁壁設置等の斜面崩壊防止対策工事を行った「**急傾斜地崩壊対策事業**（事業費2,289万円）」や南海トラフの巨大地震等を想定した地震と津波の避難地図（ハザードマップ）を作成、配付した「**水防体制整備事業**（1,284万円）」などを行いました。

④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

具体的には、健康診査や予防接種などの様々な疾病予防に取り組んだ「**予防推進・健康増進事業**（事業費1億1,629万円）」や保育所等に在籍して

いる児童が病気になった場合や、病気の回復期にある児童が集団生活に適さない場合に、一時的に保育を行う事業を実施するため、委託先となる広島西医療センターが行った施設整備の費用を助成した「**病児・病後児保育施設整備補助事業**（973万円）」などを行いました。

⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、生き生きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

具体的には、ごみの減量化・資源化を促進するため、ごみ処理手数料の導入や分別収集区分の追加等に取り組んだ「**ごみ減量化・資源化促進事業**（事業費1,794万円）」や市民の健康増進と水泳振興を図るため、新しく整備された小方学園の屋内プールを市民に開放した「**小方学園プール開放事業**（299万円）」などを行いました。

⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

具体的には、市民活動の自主性が向上するよう、市民活動団体が地域の課題解決のため自ら提案・実施する事業を公募し、助成金を交付した「**市民活動支援事業**（事業費322万円）」などを行いました。

⑦ 住みたい、住んでよかったと感じるまち

市外の人が「住みたい」と思い、実際に住んでいる人が「住んでよかった」と感じるまちを目指すことが、「よいまち」の実現につながると考え、事業を実施しました。

具体的には、厳しい経済情勢や雇用環境の悪化への対策として、失業者に対する短期の雇用・就業機会の創出・提供を図るため、市において7名の嘱託職員及び臨時職員を直接雇用し事業を実施した「**広島県緊急雇用対策基金事業**（事業費1,727万円）」などを行いました。

※ 事業費は普通建設事業費（事務費等を含む）ベースで算定し、整数未満を端数処理しています。